

色彩を通じて育まれる感性

～レヅジョ・エミリア・アプローチのSTEAM保育～



社会福祉法人 北中央福祉会 あゆみ保育園

目次

- P3 これまで“あゆみ”続けてきた本園の特色活動
- P4 レッジョ・エミリア・アプローチ ～3つの特徴～
- P5 レッジョ・エミリア・アプローチを
取り入れた「色彩体験」を通じて育んできた力
- P6.7 色彩が“子ども達”にもたらした“様々な恩恵”
- P8 アトリエ広場と地域への情報発信（アプローチ）
- P9 自然の色を子どもたちが体験したバスハイク
- P10 STEAMはなぜ必要なのか？
- P11 STEAM保育とは
- P12 “まほう”の言葉かけ
- P13 身近な不思議を体験する環境を整え、学びの芽生え育みました
- P14 STEAM保育を取り入れて育まれた力
- P15 「レッジョエミリア～STEAM保育から音へ
子どもたちが身近な音」を意識していることに気づきました。
- P16 音感体験活動 ～レッジョ・エミリアと音～
- P17 音感活動を通じて育ませたい力

これまで“あゆみ”続けてきた本園の特色活動

あゆみ保育園の思い ～子ども達が何度も何度もくじけても、物事に負けず立ち上がり一歩一歩、夢のある人生を『あゆみ』育って欲しいという願いを込めてあります。

・本園では『**色彩**』というものを大切にしてきました。こどもたちに“5感を刺激し、豊かな感性を育ませ、彩り豊かな人生”を体験してもらう為です。

・本園が長年取り組んできた事業『**色彩を通じて育まれる感性**』を通じて、①色彩感覚が身につく、②感性が磨かれ豊かに育つ、③多面的な視野が身につく、④脳が刺激を受けて活性化するなどの成長を育んできました。

・そして子ども達が、新しい取り組み「**レヅジョ・エミリア・アプローチ**」 「**STEAM保育**」を取り入れた色彩体験活動を展開してきました。

レッジョ・エミリア・アプローチ ～3つの特徴～

イタリア北部の「レッジョ・エミリア市」発祥の幼児教育です。

好奇心、**協調性**、**自主性**を育むことができます。

①プロジェクト活動の推進

1年単位で長期的にひとつのテーマを**子ども同士で話し合い、調べて進める**活動。

②ドキュメンテーションの作成

子どもたちの様子を動画や写真、文字で残す方法。

(**記録を振り返り、次の活動に活かす**ことも目的に含まれます)

③アトリエの設置

葉っぱやどんぐりなど、アート活動に使用する自然物などを用意して、子どもの興味・関心を引き出す環境を整える。**自分で作りたい物を表現する。**

“レッジョ・エミリア・アプローチ”を取り入れた「色彩体験」を通じて、自主性と創造力、表現力を育んできました。

思わず挑戦したくなるような環境を整え「何を作りたいか」「どんな活動をしたいか」子どもたちが自身が話し合い、考えて活動を行うことで、主体性や自主性が育まれました。

自主性、創造性、表現力を育む取り組み

～ミーティング・話し合うことの大切さ～

自分達で「グループ」を作り「何を作りたいか」「どんな活動をしたいか」などを話し合いながら活動を行いました。

これまで本園で取り組んできた活動“色彩を取り入れたレッジョ・エミリア・アプローチ”を通じて、①色彩感覚、②感性、③多面的な視野、④脳細胞の活性化、⑤自主性・創造性・協調性が育まれました。



こっちの色がいいな～



あおむしと同じ色だよ～



手が「お水の色」になったよ！



にじいろのお魚だね！

色彩が“子どもたち”にもたらした“様々な恩恵”

「何度も何度もセロファン紙」を貼り直して完成させた、子どもたちの作品。「スタンドグラス」。

失敗するたび、自分たちで考えて学びながら完成させた「芸術作品」です。



この くわがた がいいね！



この色はどうか？



スタンドグラス（かぶとむし）



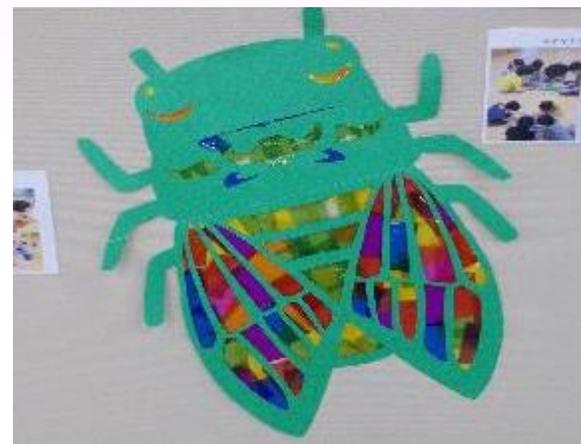
スタンドグラス（くわがたむし）



とんぼの「めがね」はなに色めがね？



みどりいろの「はね」にしたいな



スタンドグラス（セミ）



スタンドグラス（とんぼ）

五感を刺激して、**色彩感覚などの“豊かな感性”**を育むことができました



アトリエ広場

創造性を育む環境で作品展示をしました

・ 作品を作る過程（写真）や **子どもたちの表現**（言葉） **に耳を傾けると**、 **子どもたちの感性** でしか発見できない「**驚き**」や「**発見**」が沢山ありました。



地域への情報発信（アプローチ）

集会場や商業施設への作品展示

・ 子どもたちも「**自分達の作品に興味をもってきている**」「**意見を尊重してくれているんだ**」と感じる事ができたようで、**自信をもって活動に取り組んでいました**。



自然の色を子どもたちが体験した バスハイク

・空の色が「白～水色」に変化したり、木の葉が「緑～黄～赤」に変化したりと・・・「当たり前風景」ですが、子どもたちにとっては**“新たな発見”**になりました。

・ **なぜ「雲」が動いているのだろうか？**という「**素朴な疑問**」も実験機材・風のテーブルで「風の流れ」を体験してきたので、「**風が吹いているから雲がうごいているんだよね！**」とみんなで話していました。

・活動に**STEAMの要素**を取り入れたことで「**身近な疑問**」を解決できる力も育まれました。

子ども達の驚きと発見のこえ

- ・かぜがふいているから“くも”が流れているんだよね！
- ・この“どんぐり帽子”がついているよ。
- ・葉っぱと同じ色のバッタさん。茶色のバッタもいるんだよ。
- ・お空に“お城”がふわふわうかんでいるね。
- ・ここは“いい匂い”がするね♪（キンモクセイ）



STEAMはなぜ必要なのか？

～ 社会の変化に対応できる人材を育む～

今の子どもたちが大人になる頃は、“**予測不可能な社会**”になると言われています。これからは、これまでの「先生が教える、生徒は理解して習得する」といった教育スタイルだけでなく、**物事に対して課題・解決方法を見つけていく経験を重ねることが必要**になります。技術がどれだけ革新されても、それを開発したり活用したりするのは人間です。どんな時代になっても、**自分の力で自分の未来を切り拓いていくため**に、STEAM教育が大切と言われています。

学びの基礎となる乳幼児期からSTEAMの分野に触れる保育を“**STEAM保育**”と呼びます。



STEAM保育とは



～ 文理の枠を超えて多くの教科の学習を実社会にいかしていくもの ～

もともと**S**cience（科学）、**T**echnology（技術）、**E**ngineering（工学）、**M**athematics（数学）を総合的に学んでいくSTEM教育と言う考え方がありました。IT系の技術革新とともに、今後のIT社会に適応できる人材を育てていく事を目的としたものでした。

STE**A**M教育は、このSTEM教育に「**A**rt（芸術）」を追加したものです。日本では、2019年に文部科学省が「STEAM教育の推進」について述べ、保育の新キーワードとなりました。

簡単に言い換えると「**これからの時代において、自分で課題を見つけ解決していくために重要な力**」と言えます。

「まほう」の～言葉かけ

STEAM保育で大切なのは、保育者の言葉かけです。保育者の言葉によって、**子供たちの思考力はどんどん伸びていきます。**



例：疑問や課題を投げかける声かけ

「どうしてくつつくんだらうね？」 「どうしてかな？」

このような言葉をかけられた子どもは、「なんでだろう、気になるな…」 「他のものだとどうなるんだらう。調べてみよう」と因果関係を考えたり、探求心につながったりしていきます。

例：解決までの道筋を考えさせるための声かけ

「どうやったらできるかな？」 「やり方を知っているお友達はあるかな？」

このような言葉をかけられた子どもは、「どんな材料があるかな」「○○くんが似ているものを作っていたから、やり方を聞いてみよう」と自分なりの解決方法を考える事ができるようになります。

身近な不思議を体験する環境を整え、学びの芽生えを育みました

- ・これらの、実験器材や知育玩具を活用しながら**“STEAM保育”**を展開しました。活動を通じて、「**なぜ？**」「**なに？**」の質問が増えたり、**友だち同士で問題を解決しあう姿**がみられました。

実験器材～かがみ、かぜ、みず、ひかりのテーブル



STEAM保育を取り入れて育まれた力

実験器材～ 光・水・鏡・風のテーブル～ あそび



①光のテーブル

光や色の変化実験を通じて**色彩感覚**が育まれました。

②鏡のテーブル

物を様々な角度から見ることで**物の仕組みを考える力**が育まれました。



③風のテーブル

風の流れや**物が浮いたりする不思議**を経験しました。

④水のテーブル

水の流れや色水遊びを通じて**色彩感覚・水の触感**などを
経験しました。

レヅジョエミリア～STEAM保育から音へ ～子どもたちが「身近な音」を意識している事に気づきました～

- ・本園で取り組んでいる「色彩」と「音」は子供たちにとって大切なものです。
- ・「色」を見て気づくのと同様に、「音」を通じて気づく事も
沢山あるはずです。
- ・音の気づきとは？
音を聞く → これはなんだろうと感じる = 音を意識する。
音は「モノの声なんだ」と気づいていく。

・参考文献：2018宮崎学院短期大学校 小澤拓大.後藤祐子.中武亮子

・多感覚を使った音遊びの保育現場への導入に向けて -多感覚を使った音遊びが子どもの発達に及ぼす影響-

音感体験活動

～レッジョ・エミリアと音～

- ・ レッジョ・エミリアの感覚的知覚の1つに「音」があります。
- ・ この「音」を通じて育まれる「探求・認識・解釈」などの「感覚的経験」が、子ども的人格形成にとって非常に重要だとされています。
- ・ 音を楽しむ音感体験活動を通じて「音はモノの声」だと気づいていく。

参考文献：2022 大阪成蹊大学 矢倉瞳 レッジョ・エミリア・アプローチの表現を中心としたプロジェクト活動の構成 4～5歳を対象とした「音のシステム モノの声」の実践事例の場合

参考文献：2023 美作女子大学 岡本拓子 子どもの創造的な音楽活動を考える レッジョ・エミリア・アプローチの視点から

音感体験活動を通じて育ませたい力

レッジョ・エミリア～STEAM～音感体験 がつながって、自主性・創造性・表現力を育む

①リトミック活動

音を通じて**創造的な音楽活動**を体験。

②音響体験教室

違う素材が重なり合った時の**音の鳴り方の違い**を体験。

③音の玩具遊び

音をイメージ（固い音など）**で捉える力**を育む。